

モンゴルカレッジ(ハワリンバヤル)
2010年5月3日(月)
練馬区立光が丘図書館内 2F 視聴覚室

本当に役立つ国際協力って何だろう？

～モンゴル国での実践く共存への第一歩をモンゴルから～

GNC Japan(Global Network for Coexistence Japan)代表
法政大学大学院政策創造研究科 准教授
宮木いっぺい

モンゴルの現状

今、モンゴルは急激なグローバル経済の大波の中で、今後の方向を模索しています。経済的豊かさか自然の豊かさか。市場経済か遊牧社会か。エコノミーかコミュニティか。後者のみを追い求めようとしても現実のモンゴルの人々の「生活」から離れてしまいます。グローバル経済は不可逆な流れです。ただ、悲しむべきことに、今は前者のみを追い求める動きが加速しつつあります。その動きは短期的には成果をあげたかに見えても、結局はモンゴルの良き未来につながらない、両者の適切なバランスこそが何より大切だと考えます。グローバル経済を上手にコントロールすることこそが、古来のモンゴルの良さを守る防波堤になり、同時に経済的な豊かさにもつながると考えます。(2つの世界の共存)

憂慮すべき具体的問題点

グローバル経済⇒鉱工業中心の近代化路線(無限の地球を前提とした先進国モデル)

公害問題

野放図な大規模農法(環境への負荷が大きい)

過放牧(カシミア用のヤギに傾斜)

貧富の格差⇒森林伐採(経済問題→受け皿が必要)

⇒生態系破壊・砂漠化(自然)

⇒モンゴル独自の経済の土台が破壊(経済)

こうあってほしいモンゴル

3つの共存を満たすことの素晴らしさを発信する国。

持続可能なモデル国。

グローバル経済と遊牧社会、経済と自然を両立させるシステムを実現。

解決策(どこから手をつけたらいいか?)

- ①政府への働きかけ→強制力の発動
- ②成功モデルを実際に見せる(モデル緑化村、エコ植物園、エコ教室、GNC ラボ等)
- ③教育・啓蒙(長期的にはもっとも大切)

モンゴルとの出会いとその後

1996年に初めてモンゴルに行って以来、毎年訪れています。

第一印象は、子どもたちの笑顔と草原と星空。

そして、やるべきことに初めて気づかされる(豊かな自然と豊かな生活の両立が大事)。

もちろん、嫌な思いも。(日本人=カネ!?志の無いカウンターパート)

その中で、信頼できる人物(ツォゴさん、ナスカさんはじめ多くのモンゴルの人々)と出会い、その後の長い関係がはじまりました。

2007年3月にはGNC Mongoliaが設立され、ナスカさんが代表となりました。ナスカさんは、ハワリンバヤルを主催している在日モンゴル留学生会の元会長でもあります。

GNC(Global Network for Coexistence)の概要

設立

GNCは、1995年に設立されたNGOです。

理念

GNCは、3つの共存(coexistence)、すなわち

①人と人との共存、②自然と人との共存、③過去、現在、未来の共存をめざして、信頼のネットワークを広げながら動きつづけることを基本理念としています。

内容

豊かな自然と豊かな経済が両立した社会の実現(持続可能な社会)を目指しています。とりわけグローバル経済をコントロールするためのコミュニティ形成、持続可能な農牧業、森林再生、そしてそれを支える教育・啓蒙活動を重視しています。(植林団体ではありません。)

立脚点

上下⇔対等(パートナーシップ)

《関係性》

政府⇔非政府

《組織》

国⇔地域(コミュニティ形成)

《手法》

エコノミー追求⇔エコノミーとコミュニティのバランス

《目指す経済社会》

緊急支援⇔長期育成

《役割》

5つのアクション

- ①活動の着火点となります
- ②人々をつなぎます
- ③次世代を担う若者たちを応援します
- ④一緒に学びます
- ⑤一緒に考え、踏み出します

活動

- ①人づくり
- ②森づくり
- ③緑あふれるまちづくり
- ④苗畑づくり
- ⑤農場づくり。

良い「リーダー」を見つけよう！良い「アウトサイダー」になろう！そして長いお付き合いをしていこう！＝地域からの国際協力(地域コミュニティの形成を促進)

大学、各種学校、企業、NPO、住民、自治体等、地域の各セクターがネットワークを作り、協働して持続可能な地域コミュニティを築いてゆきます(モデル地区・モデル村)。実際に成功モデルを見せることで、全体に広く自発的に波及してゆくことを期待しています。

その際、重要なのは、良い「リーダー」(＝ネットワークの核となるリーダー。社会起業家など。)と良い「アウトサイダー」(＝着火点、触媒。NGO・NPO など。)です。

信頼できる人を一人でも見つけて長くその関係を育ててゆくことを大切にしています。

国際協力における GNC の役割

- ①政府主導による変革という道筋とは別な選択肢を用意すること。
- ②地域の各セクターが協働して具体的な社会・経済モデルを実現してゆくための着火点(きっかけ)になること。
- ③地域のリーダーたる市民起業家を発掘・育成し連携すること。
- ④地域内の各セクターにネットワークを築き、コミュニティを形成するための結節点(潤滑油)になること。

☆頼りになるのはヒトとヒトとの信頼関係(ネットワーク)とそこから生まれる知恵！

GNC のモンゴルでの実践

①人づくり

モンゴル国で、エコ教室・エコツアーを実施しています。日本では、スタディツアー、エコハイク、テーマサロンを実施、2000 年より他の NPO と定期的に研究会を開いています。また、2001 年からは在日モンゴル留学生会主催のハワリンバヤルのお手伝いをしています。2007 年には、モンゴルの人たちによって GNC Mongolia が設立されました。

②森づくり

2004 年より、モンゴル国セレンゲ県で植林をしています。2009 年からはモンゴル国立大学とも一緒に森づくりに取り組んでいます。また、2007 年からは、多くの企業にご支援いただいています。

③緑あふれるまちづくり

モンゴル国立大学エコロジー教育センターと協力し、2005 年、ウランバートル市内にエコ植物園を開園しました。2009 年より、トゥブ県バヤンチャンドマン村の緑化に取り組んでいます。

④苗畑づくり

2007 年より、トゥブ県バヤンチャンドマン村で緑化のための苗畑づくりに取り組んでいます。

⑤農場づくり

2000 年より、ウランバートル市トーラ村で持続可能な農場づくりに取り組んでいます。

GNC の活動のキーワード

着火点になる！最初の石を投げ込む！

⇒外へ外へと自然に波及！（良い「リーダー」と良い「アウトサイダー」）

GNC Japan (Global Network for Coexistence Japan)

〒176-0004 東京都練馬区小竹町 2-16-12-103 <http://kyouzou-gnc.com/>